

## 令和2年10月21日 市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。本日は1件、市長から報告をさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい。アクリル板が大きくなりましたね。マスク外しても大丈夫だと思います。

さて、各自治体それぞれ感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を目指して、そのかじ取りをしているわけですが、今日の報告はその中の社会経済活動、くらしのL i f eを取り戻す取り組みについて、これを話題にさせていただきます。三つ報告をさせていただきたいと思います。

国と連携していくという取り組みであります。「G o T o トラベル」に続き、「G o T o E a t キャンペーン」の静岡県共通食事券の販売予約がスタートいたしました。スポーツ観戦の入場者制限も緩和されました。くらしのL i f eを取り戻す取組が社会全体で進められています。一方で世界に目を転じてみると、フランスをはじめヨーロッパでは再び感染が拡大し、今朝もパリの夜間の外出制限の様子が映っておりましたが、本当に、この新型コロナウイルスとの闘いというのがワクチンが開発されるまで、ずいぶん長い闘いになるんだろうなというふうに感じております。そんな中でもウィズコロナで両立していかなければ いけない。そこで、報告事項の一つ目ですが、いよいよクルーズ船の清水港への寄港を 再開いたします。来月4日、水曜日、「飛鳥Ⅱ」を皮切りに「につぼん丸」、「ぱしふいっくびいなす」といった国内のクルーズ客船が、順次、入港を予定しております。静岡県が再開を決定するに際して、静岡市の地元自治体としての合意を求められましたが、船会社や受け入れ側の対策がしっかりとされているということを確認した上で、それに合意をいたしました。静岡市としても力を入れてきた客船誘致の再開の第一歩を踏み出せると、大変、慎重にこの第一歩を印さなければいけません、突破口にしてまいりたいというふうに思います。

二つ目は「G O T O スタンプラリー」、元祖G O T Oのほうのスタンプラリーであります。おかげさまで好評であります。静岡県中部の5市2町の15の施設にスタンプポイントを設定し、それぞれの施設先着1,000名の方にオリジナルのプレゼントをお渡しするという キャンペーンで、この7つの自治体の交流人口を拡大していこうという試みであります。スタートして約10日間で、すでにそのプレゼントがなくなっている施設が出てきているようです。さらに、先日の会見でも申し上げましたけれども、4つのスタンプを集めるともらえるWチャンスの応募はがきも、これまでおよそ1,600人の方々にお持ち帰りをいただき、そして15の施設全部を回った方もすでに40人以上いらっしゃるという報告を受けております。さらに呼びかけますが、G O T O スタンプラリーの期間は12月13日まで

でありますので、引き続き感染防止対策をしっかりと講じた上で、そして、この秋の素晴らしい季節の中、5市2町を回遊していただき、このスタンプラリーを楽しんでいただき、いろいろな思い出を作っていただきたいなというふうに念願をしております。

三つ目はまちお茶キャンペーンです。先日16日から「しずチカ茶店 一茶Seasonal」を開店いたしました。こちらもおかげさまで来店者が増えております。これまでの北口地下の情報発信コーナーを訪れる方は、1日およそ200人程度でありましたが、先日の金曜日から日曜日にかけては、なんと1日500人以上、土曜日には650人の方の訪れていただいたということです。一茶ですね、お茶も1日60杯程度が提供されていたわけですが、その三倍がキャンペーン始まってから出ているそうなので、多くの方が静岡市のお茶を楽しんでいただいていると、幸先良しだなとうれしく思います。先ほどのGOTOも、この「まちお茶キャンペーン」も本当にここにいらっしゃる報道機関、記者の皆さんがそれぞれの立場で多く取り上げていただいた成果だというふうに思っております。厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。私もあるテレビ局の生中継にも出させていただいて、そのかいもあってか、その日の午後はずいぶん来場者が増えたというふうな報告も受けております。

さて、ここでお手元にお配りをした資料をご覧ください。表に「まちお茶キャンペーン 静岡市お茶の日スペシャルイベント」とタイトルが書いてある資料であります。この緑色の枠で囲んである資料ですね。これが11月1日、ピークとなる静岡市お茶の日、聖一国師のお誕生日であります。ここにさらに多くの方々に、お茶で楽しんでいただき、お茶に親んでいただくような仕掛けを、今、準備しております。ご存じのとおり、聖一国師が種をまいたのは足久保地区でありますけれども、最初のお茶の種を中国から持ち帰って足久保地区に蒔いたんですが、その静岡茶の始まりの足久保茶を、この日限りの特別価格で提供するということでもあります。さらに、近隣のお茶屋さんと連携して、9月にオープンしたハニカムスクエアでは、ハニスクで楽しめるテイクアウトメニューをご提供いただくとともに、さらに17日にお披露目されたばかりの、すぐそこの「駿府ホリノテラス」では、この日限りのお茶カフェを臨時に出店いたします。つまり、「まちお茶キャンペーン」のあいさつのときにも申し上げましたけれども、しずチカの一茶を拠点にして、面に広げていくと、そして、街全体の回遊性を活発化していこうというような仕掛けであります。3カ所全部を回ると静岡市のオリジナルグッズが当たるスタンプラリーも開催しますので、11月1日、静岡市お茶の日にはぜひまちなかにお出掛けいただき、おいしい静岡市のお茶を楽しんでいただきたいと思います。

行政の役割というのは民間の方々、企業の方々、お店の方々がいかに利益を得る、いかに売り上げを伸ばすか、そういう社会環境を設定すること、これが行政の役割だと思っております。特に、こういうピンチのときには、そういう仕掛けが大事だろうと思っております。ぜひぜひ、社会経済活動という意味でもこのキャンペーンを、市民の方々も事業者の方々も活用していただきたいと、Win-Winの関係にしていきたいと願っております。

す。私からは以上です。

◆司会

それではただ今の件につきまして各社さんからご質問がありましたらお願いをいたします。ご質問の際は社名と名前をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問のほうに移りたいと思います。NHKさん、よろしくお願ひいたします。

◆NHK

NHKです。よろしくお願ひします。会談を行われましたJCHOの桜ヶ丘病院について三つ伺います。一つずつお答えいただいたら幸いです。

一つ目は、13日の市長との会談の後に、JCHOの尾身理事長から「そもそも地域の医療ニーズがどういうところにあるのか全体をしっかりと議論する」という発言がありました。その議論の現時点のスケジュールや具体的なテーマ設定はどのようになっていますでしょうか。

◆市長

まずテーマとしては将来の清水地区全体の医療体制をどう充実させていくかを、そのあたりの姿を見直していく必要があるということでありました。具体的には清水桜ヶ丘をはじめとして清水厚生、市立清水と3つの病院がありますので、その総合力の中で清水地域における二次救急医療の体制をいかにするか、必要な医療機能、医療資源をどう役割分担するか、その連携が大事だということでありました。

そして、ご質問のスケジュールについてですが、桜ヶ丘病院の耐震補強事業の開札が12月に予定されておりますので、まずは11月末を目処に、病院の医療機能は、先ほど申し上げたような非常に大きな影響を与える救急医療体制の在り方について、議論を深めてまいりたいと思います。

◆NHK

先に3つ伺います。

二つ目です。建て替えの場所については、まだ結論を出さないということでしたが、15日に市議会の創生静岡が要望に挙げられた桜ヶ丘公園の案を含めて、内陸側の土地は選択肢に入るのでしょうか。それとも従来、市長が強調されていた経済活性化のための清水都心、中心市街地であることは前提になるのでしょうか。また、市側が6月に提案した清水庁舎第2、第3駐車場案は選択肢にまだ残っているのでしょうか。

◆市長

まずおたずねの建て替えの議論のスタートは、平成29年3月の尾身理事長との共同会見になります。そのとき、尾身理事長は市民の利便性や安定的な経営あるいは早期で建て替えができる等の観点から清水都心、中心市街地に場所を移したいという選択をされました。それに寄り添って本市としても清水都心、中心市街地に都市の中核的機能になる医療施設が建設されることは、高齢化社会を想定したコンパクトシティを従来から目指しておりましたので、我々のまちづくりの考え方に合致するものと判断し、それを受け入れたわけがあります。

今後もJCHOの判断として引き続き清水都心、中心市街地への移転が優先されるだろうと認識をしております。また第2、第3駐車場については、現時点では選択肢として残っておりますが、これはすでに申し上げているとおり、必ずしもそれにこだわるものではありません。いずれにせよ静岡市民のみなさん、特に清水区のみなさんが将来、振り返って「良かった」というふうに思ってもらえるように、熟慮に熟慮を重ね、そして、議論を深めてまいります。以上です。

◆NHK

三つ目伺います。

耐震工事で病棟の寿命を延ばして移転、建て替えは当面先送りするという選択肢もあるとお考えでしょうか。

◆市長

この議論を進めていく過程の中で総合的にJCHOが判断されるものだと考えております。現桜ヶ丘病院は老朽化等の課題がございますので移転、建て替えができるよう市として、最大限のサポートをしていきたいと思っております。

◆NHK

補足で伺いますが、一つ目の議論のスケジュールについて、これは保健福祉長寿局からの説明でも結構ですが、具体的にいくつのスケジュールがなされるのか、そのスケジュール感をお示しいただけませんでしょうか。

◆市長

じゃあ、当局のほうからお願いをいたします。もう一度質問を。

◆NHK

はい。その11月末までにという議論の具体的なスケジュール、何月何日ごろに協議の場を設けるですとか、その回数ですとか、教えていただけるものをお願いします。

◆保健福祉長寿局長

はい、保健福祉長寿局長です。具体的なスケジュールにつきましては、協議の場を開催するという事柄も、皆さん、お忙しい中ですので、まだ具体的にその会議をいつ開くとかというの、まだ決まっておられません。

そういった中でですね、場合によっては事務方のほうで資料等持ち回りして、皆さんのご意見を聞きながら議論を進めまして、最終的にどこかの段階で会議を開くというかたちにはなっていくと思います。まずは11月末を目処に救急医療体制の在り方については議論を深めたいと思っております。

◆NHK

ありがとうございます。もう一つ補足ですが、建て替え場所についてですけど、今の市長のお答えですと桜ヶ丘公園案、もう一回検討するべきではないかという懸案については、そこはなかなか対象にならないという理解でいいか、そして、中心市街地というのはわかりやすくいえばJR清水駅、静鉄新清水駅から、ほぼほぼ歩いていける範囲、浸水想定区域と懸念されていますけれども、いわゆるそのあたりが候補になってくるという理解でよろしいですか。

◆市長

おっしゃるとおりです。JCHOが清水都心、中心市街地という方向性をもった決定でありますのでそれからの交渉の積み重ねにやはりなりますので、桜ヶ丘公園は薄いというふうには私は理解しています。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。以上です。

◆司会

それでは、ただ今の質問の関連で、各社さんからご質問がございましたらお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それではその他、各社さんからご質問がありましたらお願いをいたします。NHKさん、どうぞ。

◆NHK

すみません、私どものニュース時間の都合で先に伺います。日本平動物園のゾウ導入について伺います。これは、もともとタイはじめ、原産国との交渉が非常に難しい中でのコロナ禍という状況でも、市長は去年の市長選で掲げた新たなゾウのファミリーを招くという、その公約を果たすために検討を前に進めているとお聞きしております。予算面では

新しいゾウ舎の建設と今あるレストハウスの移設、あとゾウの輸送で26億円余りかかるという概算が出たとのことですが、この支出を市民の方にどのように説明して理解を求めたいか、コメントをお願いします。

◆市長

ご指摘のとおり、昨年私がマニフェストの中に盛り込んだゾウのファミリーを招くという表現でしたけどね。公約ですので、導入を目指していきたいと思っております。ご存じのとおりですが、陸上最大の動物であるゾウは子どもたちのみならず、おとなたちにも大変人気が高い動物であります。迎えたファミリーから新たな命が誕生すれば命の大切さと、そこに育まれる自然の雄大さを感じ取ることができる、まさに本市が推進しているSDGsの15番目の目標、「陸の豊かさを守ろう」というところにもシンボリックな存在になろうかと思っております。実際、タイ王国との交渉は大変厳しいものでありますが、他の原産国からの導入の可能性も含めて、今後も粘り強い交渉を深め、お互いの信頼関係を構築していきたいと考えております。

◆NHK

予算面で、この26億円あまりという概算に、どう説明して市民の理解を深めたいか、お願いします。

◆市長

一定の目途が立ち、本格的に事業を動き出すという局面になったら、例えば、市民や企業からの寄付など、市民の皆さんの理解を得ながら、官民が連携して進めてまいりたいと思っております。

◆NHK

入園料の値上げですとか、現状は高校生以上620円ですが、この値上げ、あるいは一般会計からの公金投入、こういったことはいかがお考えでしょうか。

◆市長

その局面になって総合的に考えてまいりたいと思っております。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他はいかがでしょうか。

◆静岡朝日テレビ

はい。

◆司会

はい、朝日テレビさんお願いします。

◆静岡朝日テレビ

朝日テレビです。来月1日に大阪都構想の住民投票が行われるということで、市長は都市の在り方の議論として、この動きどう見られていますでしょうか。

◆市長

ごめんなさい、最後の質問の語尾がちょっと…もう一回よろしいでしょうか。

◆静岡朝日テレビ

はい。市長は都市の在り方の議論として、どのように見られていますでしょうか。

◆市長

なるほど、わかりました。

大前提ですけれどもね、大阪府、大阪市と私どもは人口、規模であるとか、今までの歴史であるとか、あるいは現在の社会的な背景とかがまったく異なっております。

静岡市に生まれ育った私としては、静岡市民の皆さんは静岡市を廃止するということを望んでいないというふうに考えております。

◆静岡朝日テレビ

(聴き取れず)

◆市長

注視してまいりたいと思います。

◆静岡朝日テレビ

先ほどのご回答とかぶるかもしれないんですけども、その大阪のほうの動きに関連して、川勝知事が大都市の体制など、県都構想について言及しています。

このことについての所感等、改めて県都構想について、市長の考えをもう一度お聞かせ願います。

◆市長

先ほど答えたとおりでありますけれども、私は静岡市民が静岡市を廃止するということは望んでないというふうに思います。そして、指摘されるような二重行政で支障があるということも感じておりません。そういう点からやはり私たちはこの議論は慎重に扱っていくべきだと思っております。

◆静岡朝日テレビ

確認ですけれども、市長としては県都構想に関しては反対というお立場ですか。

◆市長

そうですね、川勝知事さんが今どんな思いでこの大阪の様子を見守っているか伺ったことはございませんけれども、私は先ほど申し上げたとおり社会的な背景違いますし、また、ご存じでしょうか、静岡市というのは日本の市政が始まった1889年だったかな、日本で数少ないチャーターメンバーなんですね。そこから静岡市の地方行政の夜明けである、そこから、もう、静岡市なんですね。そういう歴史を積んできたという先人たちの努力がありますので、やはり静岡市を廃止して、解体ということを静岡市民が望んでないというふうに思っています。それは、私は静岡市で生まれて、そして、いろんな地域で住んでみて、また静岡に戻ってきて、この静岡市というものに愛着を持っておりますので、そのあたりのところは、川勝知事にもご理解いただきたいなと思います。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

はい、共同通信さんお願いいたします。

◆共同通信

共同通信です。関連なんですけれども、静岡市としては特別自治市を指向していますけれども、例えば二重行政などで何か意識されている課題があれば具体的に教えていただけますか。

◆市長

例えば、今回のコロナのことについて、特措法、早く法律にしなければいけないんですけども、やはり政令指定都市はその枠外で、やっぱり例えば神奈川県の場合なんていうのは、3つ政令市がありますけれども、全部、神奈川県に、その権限が与えられるということでもありますね。そうすると、横浜市も川崎市も相模原市も、本当は自律的に、コロナのこと



ができるのかもしれないけれども、なかなかそれが思うようにできなかったということがありました。ですので、47都道府県プラス20政令指定都市というものを、法的には県と同等の権限が与えられているというふうに定められていますので、特別自治という流れの中で私たちは実質的な、こういうケースでも権限が与えられたいというのが思いであります。

◆司会

その他はいかがでしょう。はい、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。昨日、静岡大学の学長選で日詰氏が学長に選ばれましたが、静岡市は協議会を続けているということで、今後、田辺市長自身が協議会で発言されたり、参加されたりという機会は考えていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

昨日終わったばかりですので、今後、要請に応じてということになるでしょう。しかし、主体的には静岡大学の自治の範囲でありますので、その議論を見守っていきたいと思います。ただ、やっぱり自治体とすると、昨日もコメント申し上げましたけれども、地域の枠を超えて、伝統がある静岡大学を、世界から学生が魅力を感じて入学してもらえるような、そんな大学を目指す一つのチャンスだろうなというふうに思っております。

◆司会

その他はいかがでしょう。静岡新聞さんお願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今の静岡大学のことに関連してなんですけれども、昨日、学長に日詰教授が内定しまして、浜松市の鈴木康友市長が静大と浜松医大が昨年結んだ合意事項、静岡と浜松に新しい新大学を作るという案ですけれども、それについて推進すべきだということ明言されたんですけれども、田辺市長はこの合意に関しては、どのように考えているのかということをお聞かせください。

◆市長

合意は合意で尊重されるべきだと思います。しかし、その中で今回の選挙結果の含意というものがどこにあるのかということを見定めつつ、先ほど申したように、最大限、静岡大学が今後も浜松キャンパスも、静岡キャンパスも求心力の強い大学として発展をする下支えをしていきたいなというふうに思っています。

◆静岡新聞

特に静岡キャンパスのほうと浜松キャンパスのほうを分割するっていう案になっているんですけど、そのことについて、市長としてこれは反対ということは明言というか、そこまでは思っただらっしゃらない？

◆市長

先ほど申し上げましたとおり、これは大学の自治の問題で、今回の選挙結果が、やっぱりそこは慎重にするべきだという民意というのかな、結果だったというふうには受け止めております。まだ、子細に分析したわけではありませんけれども、この票の出方を見ると、浜松キャンパスに立地する工学部の教員のみなさんも、日詰先生に投票されていたということがどういうことなのかということは、検証していかなきゃいけないなと思いますし、いろいろ伺っていききたいなというふうに思っています。そういうことの中で、私たちは地域を超えて「浜松だ、静岡だ」という対立の図式ではなくて、浜松と静岡を掛け合わせて素晴らしい静岡県の総合大学として成長するお手伝いをしていきたいなというふうに思っています。

◆静岡新聞

ありがとうございます。

◆司会

テレビ静岡さんお願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。全国的に熊の被害が多数、今、ありますが、静岡市でも梅ヶ島で熊が出たりとか、先日は鹿がまちなかに出たりとか、そういう動物、鳥獣の異変みたいなものもあるんですが、今後、行楽シーズンを迎えるにあたって、山に行く人も多くなると思うんですが、改めて市長の口から注意喚起等、もし対策として何か、市として考えているものがあれば教えてください。

◆市長

これも市民の安心・安全を守ることが、一番、現場を持っている静岡市として大事ですので、注意喚起を呼びかけたいと思います。やはり里山からそういう動物たちがエサを求めてやってくるということに対して、中山間地域を擁している私たちは常に細心の注意を払っていなきゃいけないと思って、中山間地振興課の職員、非常にそのあたりを意識した施策を講じております。

◆テレビ静岡

何か具体的に、今、相次いでいることに対して、市としてあれば対策とか、考えとしてこういうことを今思っていることが、もし、あれば教えてください。

◆市長

もちろん、今日この質問があるかもしれないと思って、エキスパートを呼んでおりますので、入ってきてほしいなというふうに思いますけど、私の口から少し申し上げますと、とにかく生態系、変わっているわけですよ。台風が激甚化する、コロナが起こったのもそうですけれども、やはりSDGsだからやらなきゃいけないということにもつながってくるわけですが、動物の生態系、行動範囲が変わってきているという現実の中でどういうふうにやっていくかということでもあります。ここでやはり一番折り合いをつけなきゃいけないのは、動物保護という観点と市民の安心・安全を守るという観点のバランスをどう取っていくかということでもあります。そのためには、どれだけの有害鳥獣が、今、静岡市に、中山間地域に生息しているのかという客観的な数字が欲しい、調査をしてほしい。これは県の権限でありますので、県にそのあたりの調査をした上で、どういうかたちでその両立を図っていくとか、考えていきたいというのが私の基本的な考え方です。せっかく来てもらっていますので、統括監にお答えをいただきたいと思います。

◆農林水産統括監

農林水産統括監の白鳥です。まず基本的な姿勢につきましては、今、市長が申しあげましたとおり、自然保護あるいは動物保護という観点と、それから市民の生活、生命の安全、さらには私たち経済局の中山間地域の所管としては地域の生業、要は産業としての農林業、そういった面の保護という観点があります。それらのバランスを総合的に考慮しながらこの対策に取り組む必要があるかなというところは考えているところでございます。もう一つは、具体的な対応につきましては、まずはしっかり実態を調査するというふうなところになります。これにつきましては先日の熊の一例をとりますと、やはり県との連携、これは熊の捕獲等につきましては、県が許認可を持っているというふうなところもありまして、そちらとはしっかり連携をしながら、実際、先日、満観峰付近で発見された際もあそこを利用されるハイカーなどの市民向けには、中部農林事務所と連名でチラシを配布、あるいは注意看板を設置する等の対応をさせていただいたところでございます。今後も熊等に限らず効果的に、この野生鳥獣に対する対応を考えていくうえではセンサーカメラの設置等で実態把握を積極的に進めてまいりたいと考えているところです。以上です。

◆市長

統括監ありがとうございます。ご存じのとおり昨日は連合自治会からこのことについて、もう異例の要望ですけれどもね、中山間地域のみじゃなくて、まち全体としてこのことについて市民の安心・安全を守ってほしいと要望書をもらいましたし、もちろん、農業団体からもこのこと、もらっています。ですので、私たちは万全の対策をハード・ソフトしていかねばいけません。このことについて、いなくなっちゃった？せっかく前振りをしていたんですけれども、もう第一人者ですね、静岡市のこのことについてのエキスパートである、望月補佐がおられますので、少し発言をしてもらいたいと思います。

◆中山間地振興課参事

中山間地振興課の参事兼課長補佐しております、望月と申します。鳥獣行政を10年以上やっております。熊の件、それから土曜日、日曜日の鹿の件、市民の方、非常に怖い思いをしていると、先ほど統括監からも話がありましたけれども、なかなか静岡市だけではできないところもありますので、静岡県と連携しながらいろんなことをやっていきたいと思っております。

それで市民の方をお願いしたいのは、特に山のほうに行かれるときは野生動物の生活圏にお邪魔するんだというぐらいのつもりで十分気を付けて行っていただきたいということ、それから見かけた場合ですね、山の中ではいいんですけれども、里のところで見かけた場合は必ず静かに逃げてください、その上で静岡市あるいは中部農林事務所、警察にご一報いただければと思います。よろしくをお願いします。

◆市長

はい、補佐ありがとうございました。以上です。

◆司会

その他いかがでしょうか。はい、日経新聞さんお願いします。

◆日経新聞

日経新聞です。よろしくお願いします。G o T o E a t が来週の26日から始まりますけれども、市長として何か期待することか、あるいは心配することか、そういったものがあればぜひ教えてください。

◆市長

やはり期待することは、それぞれのお店が売上を伸ばしてくれることであります。心配することはこれがクラスターの発生、感染拡大につながってしまうかということであります。ただ、そこらへんは十分両立が可能なように、行政としてなすべきことをなしております。

ます。

◆司会

よろしいでしょうか。その他いかがでしょうか。はい、SBSさんお願いします。

◆SBS

SBSです。よろしくお願いします。先ほどの日本平動物園の件で関連してお伺いしたいんですけども、象の家族を招くために交渉を続けているということだったんですが、担当の方に伺うと、6年後の輸入を目標に動いているというお話だったんですが、答えられる範囲で結構なので、今どういった交渉を続けているのか、進捗状況を改めて教えてください。

◆市長

客観的な情勢として20世紀に比べてワシントン条約等々で、いわゆる動物園で見せられる動物の国境を越えた移動というのが厳しくなっている現状があります。そういう意味では先ほど申し上げたとおり、タイ王国と今、交渉を粘り強く進めているんですけども、なかなか難しいなというのが私の実感であります。私たちはSDGsの一つのお手本として、この静岡、日本平でしっかり環境を作るから、生態系を守るような広い土地の新築象舎を作るから「ぜひ頂きたい」というふうをお願いしているわけですけども、やはりタイの中でもいわゆる自然保護団体が従前よりも非常に活発になってきていると。象1頭たりとも、もう他へ出しちゃいけないというような、そういう考え方も生まれてきていると。そこらへんの両立の中で、どういうふうにWin-Winして、SDGsの精神をともに追い求めていくかというのが交渉のポイントですので、今、「いつまでに」ということはなかなか言えないというのが、切ないなというふうに思っています。

◆SBS

もし、象を輸入することができた場合、今飼っている2頭が、高齢化が進んでいるということなんですけれども、もし輸入が可能になって、実際に招くことになった場合の期待を教えてくださいませんか。

◆市長

今日は園長も来てくれているので一番、スタンバイしてくれている？うん、竹下園長も来てくれているので、発言をお願いしたいと思いますけれども、やっぱり日本平生まれの子象ができればうれしいなというふうに思います。園長お願いします。

◆日本平動物園長

日本平動物園長竹下です。よろしくお願ひします。今、市長のほうからもご意見いただいたところなんですけれども、現在、高齢化しているダンボとシャンティという雌象が2頭います。私どもは高い飼育技術のもと大事に育ててきたということで、今、ダンボが国内の中で2番目に高齢の象になります。それからシャンティが4番目ということで国内でも有数の高齢のゾウということで、大事に大事に我々も育ててきております。今後、新たに4頭導入するということになったときには、なかなか一緒に同居させるというのは難しいこともありますので、それぞれがそれぞれのところで、適正な環境で飼育をしていきたいというふうに考えております。以上です。

◆市長

どうもありがとうございます。以上です。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ではNHKさんお願いします。

◆NHK

すみません、少し時間があるようですので、市長が今年度重視しておられる戦略広報について少し伺いたいですけれども、市長、よく戦略広報の考え方として伝える広報と伝わる広報の違いという話をされて、伝えたつもりでも伝わってなければ意味がないということをおっしゃっています。一方で、今日は穏やかなやりとりで安心しているんですけれども、前回の私とのやりとりも含めて記者会見の中でよく、「先ほどの私の回答を理解したうえで質問していますか」ですとか、「先ほど申し上げたとおりです」という答えだけで済ませようとする受け答えがたびたびあります。伺う側は市長の回答が不十分だと思って追加質問をしているわけなんですけれども、それをたびたび、先ほど申し上げたとおりですと言うだけの答えで済まそうとなさるその口ぐせは、市長の言う伝える広報ではなく伝わる広報という方針と合致するとお考えなのかお聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

そう考えています。ぜひ双方向で議論を深めていきたいなといったときに、「先ほどお答えをしたとおり」という質問の意味を、ぜひご理解いただきたいなと思っています。

◆NHK

他の記者さんも含めてそうだと思いますが、市長が答えを十分いただけてないと思っているからもう一回聞いているわけですので、それを先ほどお答えしたとおりですという答えではもう一回聞かなくてはいけないだけですので、私、よく議事録見返しているんですけども、市長のお答え、何度読み返してもやっぱり答えていただけてないということばかりですので、そのあたり市長はそれが伝わっていると本当に思っているのか、前回でしたら駐車場の問題でしたけれども、そのあたりはどうぞ自身の伝える広報、伝える広報というのを、ご自身で振り返っていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

ありがとうございます、今後の参考にさせていただきます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は11月10日、火曜日、11時からとなります。よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。